

## 平成28年第4回岩国市議会定例会会議録（第1号）

11番 武田伊佐雄君。

○11番（武田伊佐雄君） こんにちは。11番 憲政会の武田伊佐雄です。早速ですが、通告に従い、一般質問をいたします。

まず、大きな項目の1、官民協働について、（1）子ども食堂の支援についてお尋ねいたします。

今年度、市民協働推進課の事業である、みんなの夢をはぐくむ交付金を活用して、NPO法人が岩国市内で子ども食堂を始められました。子ども食堂については、前回6月定例会でも30番議員が一般質問されたところでもあり、また、教育民生常任委員会でも東京都豊島区での子ども食堂の活動を行政視察してきたところですので。今後、市として、どのような支援ができるかお聞かせください。

次に、（2）協働のための取り組みについてお尋ねいたします。

子ども食堂を運営されているNPO法人の代表から、余った野菜があったときにいただけると助かるというお話を聞きました。その話を受けて、例えば、傷ついたり、形が整っていないために商品として出荷できない野菜、豊作のために余ってしまった野菜などがあれば分けていただけるような農家との情報ネットワークがあれば、助成金を出す以外の支援ができるように考えるのですが、そのようなネットワークの構築は可能ですか。また、今後、さまざまな形で連携をとるためのネットワークづくりが必要になってくると考えますが、市としてどのように取り組むのかお聞かせください。

次に、大きな項目の2、子供たちのスポーツ活動について、（1）中学校の部活動についてお尋ねいたします。

生徒数の減少による廃部などの理由で、生徒の希望する部活動が校区内の学校にないため、仕方なく学校にある部活動の中から選んで部活動を頑張っている生徒もいるようです。可能な限り生徒の希望をかなえるためにどのような対策が考えられると思うか、お聞かせください。

他市では、自分の校区内に希望の部活動がない場合、希望の部活動がある一番近くの学校に通学できるような対応をとられているところもあります。本市でも同じ制度を導入した場合、私の地元の中学校のように小規模校は生徒が流出して、すぐに廃校になるのではという懸念もあります。コミュニティ・スクールを導入し、地域密着型の学校環境を整えつつある今、生徒の目線に立って、スポーツ活動ができる環境づくりに取り組むための市の考えを伺います。

また、（2）総合型地域スポーツクラブについてお尋ねいたします。

中学校の部活動の代替措置の一つとして、総合型地域スポーツクラブの活用をしているところもあるようです。本市についての状況をお聞かせください。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○市長（福田良彦君） それでは、武田議員御質問の第1点目の官民協働についてお答えいたします。

まず、（1）の子ども食堂の支援についてであります。子ども食堂は、地域の子供たちに、無料または極めて低料金でバランスのとれた食事を提供する取り組みであります。その目的は、単に食事を提供することだけではなく、温かい食事をみんなで楽しく食べることにより、安心できる居場所を確保し、社会からの孤立を防ぐとともに、子供たちが発するシグナルを受けとめ、地域で共有して支援へとつなげていくことであると認識しております。現在、市内においては、この取り組みを行っているNPO法人1団体を把握しております。

市としましては、この取り組みの公益性は高いものと認識しており、このような取り組みをされる団体につきましては、その取り組み内容や実績を踏まえた上で、必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、(2)の協働のための取り組みについてでございますが、少子高齢化等、社会環境が変化する中で、市民からの要請は多様化・高度化しており、現行の行政サービスだけでは十分な対応が難しくなっております。そのような中、本市では、岩国市総合計画において、「支えあいと協働でつくる絆のあるまち」を基本目標の一つに掲げ、市民の主体的な取り組みを支援するとともに、一人一人の人権が尊重され、ともに生き、支え合う助け合いのまちづくりを推進しています。

そして、市民が積極的に市政に参加・参画できる機会と互助・共助を進める体制の整備を行い、市全体が一体となる協働のまちづくりを進めるために、岩国市協働のまちづくり促進計画を今年度策定することとしております。

この促進計画に基づき、市民一人一人が地域社会の一員であることを自覚し、学校や市民活動団体、個人、行政、専門家、企業などの多様な主体がそれぞれの長所を生かし、広範囲に連携していくことで、公共サービスの柔軟性の向上、人と人とのつながり、ネットワークの形成、市民参画の拡大などにつながり、今まで容易に解決できなかった課題もスムーズに解決へ向かえるものと期待をしております。

市といたしましては、促進計画の策定を契機に、多様な主体が協働して課題に取り組むことができるように促進計画の啓発や協働のまちづくりを促進していくための体制づくりに努めるとともに、より具体的な協働の方策についても取りまとめていく予定としております。

また、協働の主体相互のネットワークを構築するため、このネットワークの中間支援組織として、いわくに市民活動支援センターについても、さらなる充実を図るなど、協働のまちづくりを推進しやすい環境の整備に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

**○教育長（佐倉弘之甫君）** 第2点目の子供たちのスポーツ活動についての(1)中学校の部活動についてと(2)総合型地域スポーツクラブについてお答えします。

全国的に少子化が進み、本市においても年々生徒数・教員数が減少しており、その影響は、学校教育における部活動数の減少という形であらわれています。

現実には、生徒が中学校に入学して希望する部活動がなく、本人の希望ではない部に入部したり、スポーツ少年団等で続けてきた競技をやめたりするなどの事例が見られます。このような場合は、一部の生徒は中学校の部活動に加入せず、地域のスポーツクラブに所属し、好きな競技を続けています。しかし、生徒数・教員数が減少し、部活動の維持が難しいという状況では、生徒のニーズに応えるために部活動を新設することは難しいと考えます。

議員御質問の、希望する部活動が校区内の学校にない場合は、就学学校の変更を許可するか、または校区外の学校の部活動への参加を認めるなど、生徒の希望に沿った対応ができないかという点につきましては、特定の学校へ生徒が集中する一方、特定の学校では逆に生徒数が減少することが懸念されたり、他校への移手段・移動時間や安全上の問題等が心配されたり、現時点では生徒の希望に沿った対応は困難であると考えています。

議員御紹介の総合型地域スポーツクラブについては、「いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しもう！」とのスローガンのもと全国各地で設立されており、本市におきましては、現在六つのクラブが活動しています。地域によって違いはありますが、ハンドボールや卓球、水泳、陸上競技、新体操等のスポーツクラブ・スポーツ教室のみならず、健康づくりや生涯学習・文化活動にも取り組まれるなど、幅広い年齢層の方々がスポーツを主体に積極的な活動をされています。そして、現在、多くの中学生が所属しているクラブもあり、生き生きと活動しています。

生徒たちにとって、スポーツ活動は、生涯にわたって、たくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さや規律をとうとぶ克己心を培うなど、人間形成において大きな役割を担っていま

す。

教育委員会としましては、中学校の部活動を中心としながらも、総合型地域スポーツクラブや他のスポーツ競技団体等へ参加することを通じて、子供たちのスポーツ活動を推奨していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） それでは、再質問をいたします。

まず、大きな項目の1、官民協働について、（1）子ども食堂の支援についてお尋ねいたします。

みんなの夢をはぐくむ交付金は、現行、最長でも3年間しか助成を受けられないと思いますが、先ほどの答弁を受けて、それ以降も継続して、子ども食堂を行っていただけるように支援はいただけたらと考えてよろしいのでしょうか。

○健康福祉部長（福岡俊博君） その時点での事業の審査、これは必要になってまいります。先ほど市長が壇上で申しましたように、大変公益性のある事業であると考えております。したがって、必要な支援を行ってまいりたいというふうに思っています。

○11番（武田伊佐雄君） 先ほど御紹介した子ども食堂のNPO法人は、無料学習塾のほうも提供されておりますので、引き続き御支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

次に、（2）協働のための取り組みについてお尋ねいたします。

促進計画が策定されるのはわかりましたが、一つ肝心なのは当事者意識ではないかと思えます。先ほど答弁に、多様な主体がそれぞれの長所を生かし、連携することでとりましたが、促進計画がなくても庁舎内の連携はしっかりととっていただくよう提言します。

何が言いたいかといいますと、壇上でも発言しましたが、子ども食堂については、教育民生常任委員会で視察し、その委員長が一般質問でも取り上げていたわけです。にもかかわらず、ことし、子ども食堂が運営されることが、委員会メンバーにも委員長にも情報が上がってきませんでした。これは議会軽視によるもののでしょうか、担当所管の違いによる連携不足でしょうか、それとも議場では耳にしている当事者意識の欠如を意味するものなのでしょうか。

それと、先ほどの答弁にちょっと漏れていたんですけれど、農家とのネットワーク構築についての答弁を求めます。

○市民生活部長（井上昭文君） 議員御指摘のとおり、複数の課にまたがるというような状況の中で、連携が十分にできていない点、そして反省すべき点もあったように思います。今後、協働を全庁的に進めていく中では、今以上に連携の裾野が広がり、その際、これまで担当していなかった分野についても当事者意識を持って取り組むことが重要となってまいります。現在のところ、その点に関し、まだ十分とは言いがたいところもございますけれども、今後、協働のまちづくり促進計画に沿って進めてまいります研修等の中で、意識の向上に努めてまいりたいと考えております。

それと、ネットワークの構築につきましては、まずは庁内の関係部署に情報提供を行ったところがございます。また、引き続き市内の市民活動団体にもあわせて情報提供したいというふうに考えております。

協働のまちづくりに向け、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、今後とも御支援のほどよろしくお願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） はい、わかりました。議会と執行部で両輪で市政に取り組むというのは、我々も協働するということで理解しております。皆さんが市民生活の向上のために御尽力いただいていることは多くの市民に知っていただけるよう私も努力するつもりです。その点で、我々にも情報提供を適切に行っていただくよう改めて求めておきます。

さて、答弁にもありましたが、子ども食堂は単に食事の提供だけでなく、安心できる居場所の確保という側面もあります。

そこでお尋ねしますが、子供たちが一人で食事をする、いわゆる孤食についての生活実態調査は行われていますか。

**○教育次長（山口妙子君）** 孤食の実態調査に関しましては、山口県学校栄養士会が児童・生徒の食生活に関する実態を把握するため、毎年、小学校5年生と中学校2年生を対象にしたアンケート調査を実施しておりまして、その中に孤食に関する項目がございます。

平成28年度の調査結果といたしましては、夕食を一人で食べることがありますかの質問に、小学生では、「ない」77.1%、「ときどきある」18.2%、「よくある」4.0%。中学生では、「ない」73.5%、「ときどきある」20.4%、「よくある」4.9%となっております。

**○11番（武田伊佐雄君）** そのような調査ができるのであれば、調査項目を広げれば、市内の子供たちの生活実態がある程度把握できると思いますが、いかがでしょうか。

**○教育次長（山口妙子君）** 現在のこの調査の内容が、調査項目が朝食と給食を中心にしたものになっております。教育委員会といたしましても、児童・生徒の食生活に関する実態をより詳細に把握するために、調査項目の追加について、山口県学校栄養士会のほうに働きかけてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

**○11番（武田伊佐雄君）** NPO法人の代表の方にお話を伺ったんですが、今回、岩国で子ども食堂を開催するに当たって、周りの人からの御意見をいただいたということがきっかけになっていると伺っております。やはり、今、岩国市がどういう現状にあるのかという把握をされておれば、ひょっとしたら、ほかの団体の方も、こういった地域にそういった場所、子供たちの居場所をつくらんといけないと思って、手を挙げてくださる方もおられますので、そういうふうな情報把握、また、そういった方々をサポートできるネットワークの構築のほうをぜひ進めていっていただきたいと思います。

次に、大きな項目の2、子供たちのスポーツ活動について伺います。

(1) 中学校の部活動についてお尋ねいたします。

子供たちの希望に沿った対応は困難であるとの答弁は、余りに寂しく感じます。5年前にも通学区域の弾力化について、教育民生常任委員会の学習会で協議されたと伺っております。さまざまな意見が出たようですが、魅力ある学校づくりの一環としても、どのような対応をすべきかという調査は、今後行っていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

**○教育長（佐倉弘之甫君）** 以前から、議員言われますように、この問題についてはさまざまところで議論しているところでございまして、岩国市の現状の中で、どのように取り組んでいったらいいのかという点で、以前も広島県の例を挙げて、そうした方向はどうかとか、いろいろありましたけれど、岩国市の状況といたしましては、先ほど壇上で議員が言われましたように、例えば、一つの例として、西中なんかの例を挙げると、本当に学校の存続そのものがどうなるのかなというような懸念もあつたりするということで、岩国市全体の構想の中で、今後、部活動をどうしたらいいのかという点で、研究・調査を引き続きしていきたいというふうに思っております。

**○11番（武田伊佐雄君）** それではお尋ねしますが、教育民生常任委員会の学習会では、今後、全国の動向なども調査してほしいなどの要望があつたようですが、その後の対応はいかがですか。

**○教育長（佐倉弘之甫君）** 全国の調査ということで、5年前ということで、私が教育長になった、（発言する者あり）前ですか、ちょっと申しわけない、記憶にちょっとないところではありますが、いろいろ私も教育長になって、この問題は非常に重要な問題ということでめくってみました。ずっと議論さ

れております。議論された中で、先ほど言ったようなことがあって、あくまでも部活動も大切だけれど、学校教育、あるいは学校運営、学校経営、こうしたものが中心の中での部活動という捉え方の中で、今後もまた取り組んでいかなきゃならないというふうに思っておりますが、いずれにしましても、岩国市の現状から申しまして、それをオープンにするということは、学校の経営上、大変、難しい状況にあるということは申し上げたいというふうに思います。

**○11番（武田伊佐雄君）** 私は何も学校の生き方というか、それをオープンにしろということを訴えているわけではなく、子供たちのスポーツをやる環境をしっかりと考えて整えてほしいということを行っているわけで、ちょっと言葉に気をつけないといけないと思うんですけど、先ほどいろいろ議論されているというふうに教育長は言われましたが、議論されているのは、全国各地でいろんなところで話をして、いろいろ各地で協議されているということじゃないかと思うんです。というのは、結局、5年前にいろいろ調査してほしいというものに対して、岩国市のほうで、例えば、検討委員会であったり、調査委員会であったりというものを立ち上げて、組織して、それを検討されているのかということを知りたいんですけど、やっていくと言うけれど、実際にそういった組織立てて、どういったことを調べていくのかということを明確にちょっと出してほしいんですけど、いかがでしょうか。

**○教育長（佐倉弘之甫君）** ちょっと今の提案については考えてみたいというふうに思っています。どのような内容にしていくのか。私といたしましては、壇上でも述べましたように、総合型地域スポーツクラブづくりとどのようにリンクをしていくのか。あるいは、子供たちのニーズというのがどうであるのか、保護者のニーズがどうであるのかという点を含めて、総合的に考えるということがとても大事だというふうに思っております。それとともに、私の私的な考えを言わせていただければ、中学校にそのクラブがなくて、違うクラブに入った場合においても、やはりいろいろ違った指導者との出会いとか子供たちの出会いとか、いろんなステージが幅広くなって、子供の成長には非常に有意義な成長も一部にはあるということですので、そうしたことを含めまして、また私どもの教育委員会、学校教育課のほうでもちょっと検討してみたいと思います。またその内容についてはお知らせします。

**○11番（武田伊佐雄君）** ただいま教育長のほうからいただいた答弁の内容、わからなくもないというふうに思います。私も、高校のときに、図らずも応援団というところに、先生のほうの意向でやられて、実際3年間やってみてすごくよかったなというので、結局、やりたいことをずっとやるだけがいいわけではないというのは大変わかるんであれなんですけれど、やはり具体的に組織立ててどういったことをやる、子供たちにとってどういう環境が岩国で整えられるかというのは、すぐに答えが出るような問題じゃないと思っています。なので、ある意味、長いスパンをかける必要もあるかとは思いますが、その中で、例えば調査するというのも、今の時代、インターネットで検索すれば全国でどういふ数字が出るかというのはぱっと出るわけです。今、全国ではどういう状況ですということを報告することはすぐできる。でも、肝心なのは、やっぱり議論を重ねることによってどういうふうなまちづくりをしていくかという姿勢が大事なんじゃないかと思うので……。

ちょっと悪い例なんですけれど、先日、オオサンショウオの保護の件でいろいろ市のほうも、どういったことをしたらいいかという調査をしていますという話が年間計画に出ているんです。27年度どういふことをやる、28年度調査するというのがありますけれど、実際のところ何をやったかといったら、オオサンショウオの全国大会に出席したというたった1回なんです。それを1年かけてやることなんかというのは、書面じゃわからないんです。やはり、ちょっとそこら辺のところは真摯に受けとめていただいて、子供たちが本当に置かれている環境をどうするべきなのかというのを、しっかりと取り組んでいただきたいと思いますので、強く提言させていただきます。

次に移ります。現在、外部からコーチとして部活動の指導に入られているなどの状況がありましたらお示してください。

○教育次長（山口妙子君） 部活動の外部指導者につきましては、現在、市内中学校全体で93名が登録されております。その方たちによりまして技術指導などを行うなど、大変お世話になっております。その指導者の方への謝金等につきましては、ほとんどの学校が文化体育後援会費などから出しているか、または部費を集めている場合はその中から出しているような状況でございます。また、中には、ボランティアでの外部指導者の方もおられます。以上でございます。

○11番（武田伊佐雄君） 遠征などの負担軽減などにあつては基金の活用なども検討していただければよろしいんじゃないかと考えるんですけど、いかがでしょうか。

○教育次長（山口妙子君） すぐに可能かどうか、ちょっと研究してみたいとは思いますが——検討させていただきます。

○11番（武田伊佐雄君） ことし、本市は日本体育大学と体育・スポーツ振興に関する協定を結びました。先日、会派で日本体育大学に視察に伺った際に、呉市の小学生が大学で指導を受けられていたのを目にすることができました。協定に基づき、ジュニアアスリートを対象にした事業があればお聞かせください。

○市民生活部長（井上昭文君） 議員御案内のとおり、市ではことし4月に日本体育大学と体育・スポーツ及び健康づくりの分野において、児童・生徒、学生、教職員の相互交流、施設の相互利用などによって相互の発展とさらなる社会貢献を図ることを目的に、体育・スポーツ振興に関する協定を締結いたしました。

今年度の事業といたしまして、11月23日開催予定の第50回錦川清流駅伝競走大会に、ゲストランナーとして同大学陸上部に参加をいただくことで現在調整をいたしております。また、8月に開催いたしました全国高校総体カヌー競技大会には、同大学のカヌー部の監督を役員としてお招きし、今後の連携事業について情報交換をしたところでございます。

本市と大学とが継続してそれぞれが有する社会教育資源を有効に活用いたしまして、議員御提案のジュニアアスリート育成への取り組みも含めまして、スポーツの推進や健康づくりにつながる取り組みに今後、大学との調整を図ってまいりたいというふうに考えております。

○副議長（石本 崇君） 済みません。ニホン体育大学じゃなくて、ニッポン体育大学です。

○市民生活部長（井上昭文君） 失礼しました。ニッポン体育大学、訂正させていただきます。

○11番（武田伊佐雄君） 大変失礼いたしました。ニッポン体育大学でした。訂正させていただきます。

やはりトップアスリートの方に触れる機会があると、そういったことを踏まえて、いろいろ市のスポーツ推進のほうも進んでいくと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

次に、（2）総合型地域スポーツクラブについてお尋ねいたします。

総合型地域スポーツクラブを部活動の代替として活用する場合、学校管理下で部活をする場合とでは試合の出場や保険の対応などが変わってくるかと思いますが、どういった問題点があるとお考えでしょうか。

○教育次長（山口妙子君） 総合型地域スポーツクラブや他のクラブチームでスポーツ活動を行っている生徒の中学体育連盟主催の試合への参加につきましては、団体競技については参加できませんが、個人競技の中で、新体操、硬式テニス、水泳については、学校に部活がない場合等について、学校で中学体育連盟の登録を行い、大会へ出場している事例もございます。

また、学校の管理下の部活動の保険は、児童・生徒全員が加入しております日本スポーツ振興センター災害給付金、個人負担額年間460円に対応いたしますが、総合型地域スポーツクラブでスポーツをする子供たちは別に保険料を年額約800円程度を負担するようなこととなります。

今後もさまざまな課題を解決するためにどのような対応をすべきか調査を行いまして、生徒にとってよりよい方向になるように努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） 部活動というのは日本特有の制度とも伺っております。諸外国では、放課後のスポーツは学校の管理から外れているのが主流という状況の中、将来、日本も総合型地域スポーツクラブの方向に動く可能性も視野に入れ、国の動向なども注視しながら、岩国から未来の日本代表を輩出するという気概を持って取り組んでいただくよう提言いたします。

以上で一般質問を終わります。

○副議長（石本 崇君） 以上で、11番 武田伊佐雄君の一般質問を終了いたします。